

(4) 認知症の症状

認知症の症状はさまざまですが、**中核症状**と**行動・心理症状 (BPSD)**の2種類に大きく分けられます。

中核症状

病気などにより脳の細胞が壊れ、その細胞が担っていた機能が失われたために起きる症状

●記憶障がい

- ・さっき聞いたことが思い出せない
- ・覚えていたはずの記憶が失われる



●実行機能障がい

- ・前もって計画を立てることができない
- ・家電や自販機などが使いこなせない

●見当識障がい

- ・時間・季節・場所等が分からなくなる
- ・道順などが分からなくなる

●理解・判断力の障がい

- ・考えるスピードが遅くなる
- ・いつもと違うことで混乱しやすくなる

主な行動・心理症状 (BPSD)

「中核症状」により生活上の困難にうまく適応できない場合に、本人の性格、環境、身体状況が加わって起きる症状

●幻覚 (幻視・幻聴)

- ・実在しない音や声が聞こえる幻聴や
実在しないものが見える幻視など

●妄想

- ・ものを盗られたと訴えるなど、現実にはあり得ないことを真実と信じ込む



●外出中に道に迷う

- ・本人なりの理由で外出したが、
道が分からなくなったり、
外出の目的を忘れてしまい道に迷う



●不安・焦燥

- ・不安になり、日常のささいなことを
心配する



●うつ状態

- ・気分が沈む
- ・何に対しても興味を示さない

●せん妄

- ・一時的に注意力や思考力が低下する状態
- ・幻覚、暴言・暴力がみられることがある

●暴言・暴力

- ・大きな声をあげる
- ・暴力をふるう

●不潔行為

- ・主に排泄に関連した行動がうまくでき
ずに起こり、便いじりなどがある

●不穏・興奮

- ・落ち着かない
- ・イライラしやすい



●介護抵抗

- ・介護者に反抗的な
態度を示し拒否する

